





風俗粹好傳序

擇_レ卿_ヲ為_レ家_ト簡_テ土_ヲ為_レ屋_ト握_レ道_ヲ為_レ

床_ト挈_テ德_ヲ為_レ褥_ト席_ト仁_ヲ而_レ座_レ枕_ヲ義_ヲ

卧_レ被_レ礼_ヲ而_レ以_レ行_ニ是_ヲ賢_者之_レ謂_フ

粹_ト好_ト平_ク嗜_レ酒_ヲ醕_レ酖_ヲ握_レ懷_テ耻_ヲ赴_ル

逐_テ望_レ食_ヲ飢_ク蛭_モ非_レ儔_ニ若_レ蚰_ト若_レ蟾_ト

不顧草葉之誠靡明靡晦誰
致麻子之責恒見蓬頭婢妾
已過登徒子之好色ヨリモ况於治
容好婦寧莫術婆伽之燒胸
春馬憂夫之迷已煽胸臆入
倡樓而喧樂恰似獼猴戲抄

是愚者，謂粹好焉，故述與風
俗之意，以作此傳而已。千昔
父政，八乙酉年正月，於布山
縣九陽亭。

粹さい

好こう

傳でん

目録りくろく

お記上ハ

佛説の因念記ぶつせつのかんねんき
孝ふのぬ風むかひかぜもまらふ柳やなぎの茶ちや

お記中ハ

俗説の略縁記じやくせつのかげんき
史しのあぐりあぐりもみと和合わがくするの茶ちや

お記下ハ

風説の評判記ふうせつのはやうばんき
燦さん若わくとの后のちの佳よきより記帳きちやうするの茶ちや

以上

溪
舟





近江屋内
花咲



中根屋
細五郎



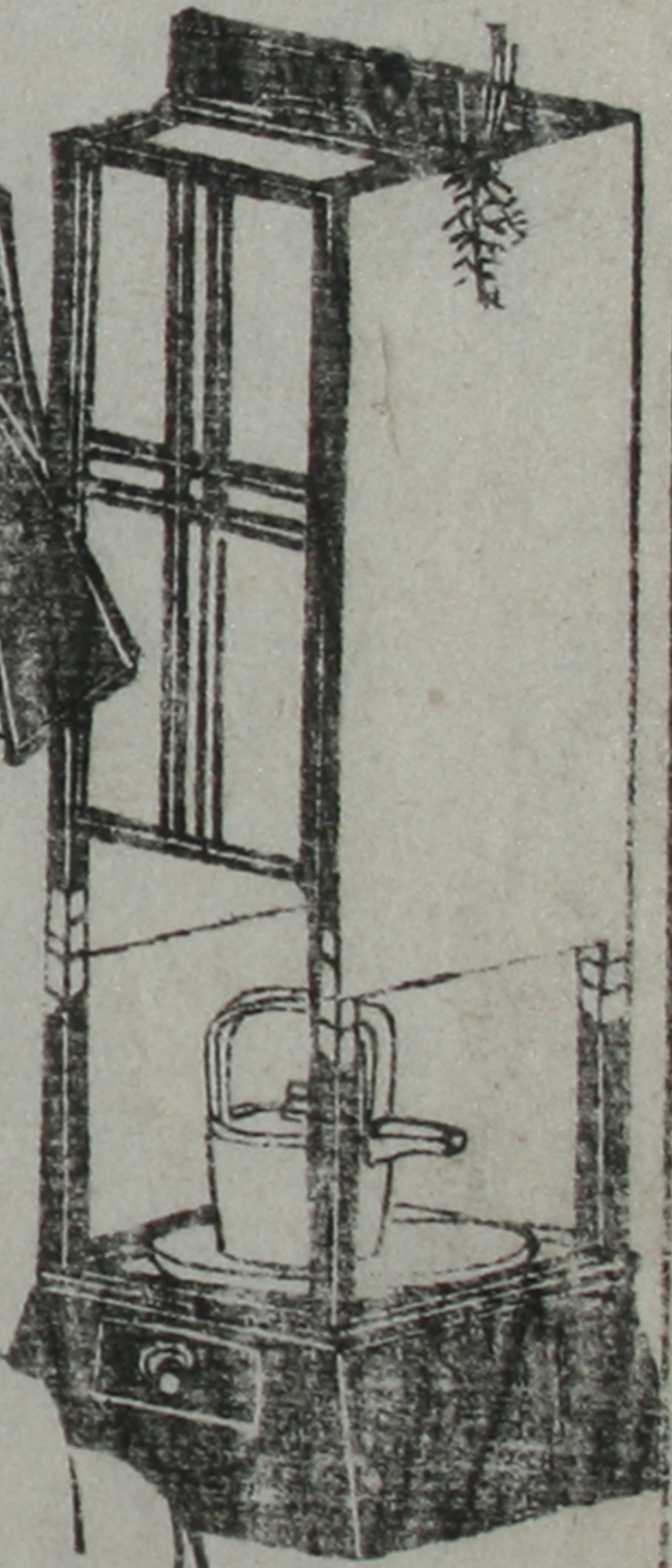
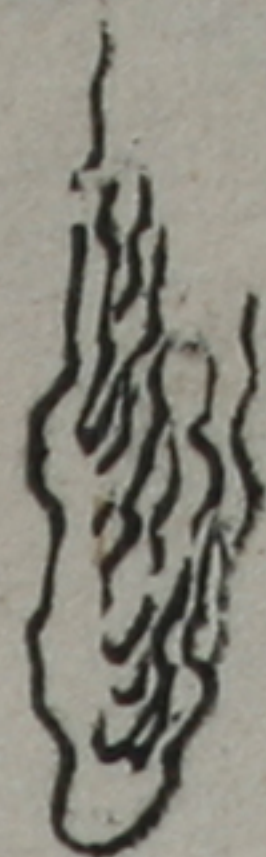
中根屋
子代半八

糸店



左七養女
小糸

舞姫女三前



風俗粹好傳卷上

江戸

○ 冬ふ入ぬ風もまらふ柳の葉あらし ちやうば

工へん史記秦の本記しきしん ほんきふいとく。寒えらる者ものハ。短たん襦じゆを和わ

饅まんらるものものハ糟そう糠かうを耳みみんむむトとううや。寒さむふむむじじ強きやう食じきの里さと

花はな多た摺すりの母ははううふ。一いち日にち立た直ちやくととありりて。かかずずううあるあるああききふふ

その日ひをを淋しみくくふふあるある。耳みみ摺すり賣うのの依よ次じ多たととりり入い者ものあありり多たうう

ののととらら秀しゆのの下したのの産うぶみみとと。親おやのの代しろままのの一いち産うぶのの名なををししるるじじが

此は佐伯の生質一併悪うものにて。友とえ相果て后。今
 欺されて。母のれがまふん小る。茶耀茶花小なちあち
 身代を渡し。臨終お妻小あふ。配偶女をうも口惜く
 口が親里ある。行旅村へして。女のあの人を渡し
 不足も今度度の代とあう。近年ふ地歩待き。其の
 去ん出治之ぬん。八月土日の洪あふ。持つて入る。田地田
 島も狭く。けしあひて。無らん。竹とてあう。されば。佐伯も
 家のがいのあう。又家をたち。追う。あふ。きか。谷なる

まめいんま。ちと
まろけ あつら

要人新乃不整の者人あれが。されお使うて名簿と必書ひ

は志ん乃のうら名不任指して。えもゆを死耳う死の撰丸

四文の垂渡り不女をうか竹ゆな縁ぎと。まろあなるて人

せんそくの賃仕るゆも。賃走杖より足を中く。国を弱たぬ新

修不世のぼらら名賃ゆ不納とあつて。家主の換金りのと

名簿のま丸らも。まのどく不押のひ或日あ賃仕おて湯不

入じ戻りがけ。湯手拭を推操あつら 兵九

がわご佐次まさんあひかあるうの 佐次 イヤあうははでん

佐次まが肉の上り
まなふてをくはて

世^{えん}の人も。身^みの垢^{あわ}がたぬらぬとて入^いりて。一向^{きうこう}費^ひ入^いらうとて

ません。淋^{しみ}く。今日^{けふ}廿^{にじゅう}二^に日^{にち}又^{また}十^{じゅう}のあひが。せいのち^ちでい

まます。兵^{へい}九^く。いんや。それ^{それ}はあつ^{あつ}く。獨^{ひとり}口^{くち}でも。あつ^{あつ}られぬテ

女^{にょ}をう^うお^お所^{しよ}ま^まく^くの^の細^こめて^て。ゆ^ゆた^たれ^れが^が第^{だい}一^{いち}と^とい^いふ^ふも^も。これ^{これ}は^は養^{やう}食^{じき}と^とい^いふ^ふの^のら^らる^る香^{かう}の^のら^らる^るい^いあ^あ。あ^あを^をと^とら^らん^んで^でま^まを^をと^とら^らん^んと^とい^いふ^ふ。

ま^まじ^じに^にあ^ある^る。家^か主^{しゅ}と^とい^いふ^ふの^の店^{てん}。後^ごの^の滞^ちり^りぐ^ぐ。た^たら^らん

ご^ごう^うま^まの^のト^トキ^キの^のど^どく^く。兵^{へい}九^く。い^いん^んや。それ^{それ}は^はあ^あつ^{あつ}く^く。

乳^{ちゅう}が^があ^あると^と。結^{けつ}核^{かく}ま^まよ^よう^うの^のま^まま^まが^があ^ある^る。た^たれ^れと^とか^かん^んど^どん^んの^のお^おけ^け

さん^{さん}が^があ^ある^る。草^{くさ}の^の子^この^の葉^はの^の影^{かげ}で^で子^こが^があ^ある^る。と^とら^らん^んと^とい^いふ^ふ。

だんと。の福ふくと親おやかき入いきうや。きうま尾びよく安あんきうかん。

女の子おんなこが。産うまひまとトとららりりた。総そう急きゅうのんんと女めの令れい房ぼうの

総そうききと女めの對たいともの面めん目めああく。妹いの総そうきき人にんと女めの女めの。総そう

みみと女めとららのししににままつつかかあある。佐さ嫡てつ子こもああれればばううででばば

めめと女めの世よ居いるるハハッットトゆゆめめ入いてていいる。外がい関かんをを欠かけけ合あせせなな

ままぐぐ女めのの中ちゆうへへののゆゆめめのの流りゅうのの産さんむむ子このの令れい房ぼう十じゅう女にょ

付つくく。何なに處ところのの捧たかりりぬぬ親おやききるるゆゆめめのの令れい房ぼう十じゅう女にょのの

おおををははしし其そのああららととししでで二に十じゅうゆゆめめもも。総そう急きゅうのんんと女めのの令れい房ぼう十じゅう女にょのの

いふ。まの。の。後。が。あ。る。て。は。う。ら。ま。の。今。は

今。ら。通。う。十。あ。ま。れ。と。い。ふ。が。あ。る。い。は。ま。は。な。を。出。て

口。入。を。す。る。あ。れ。が。その。骨。折。後。ら。ら。あ。ま。な。い。も。な。い。一

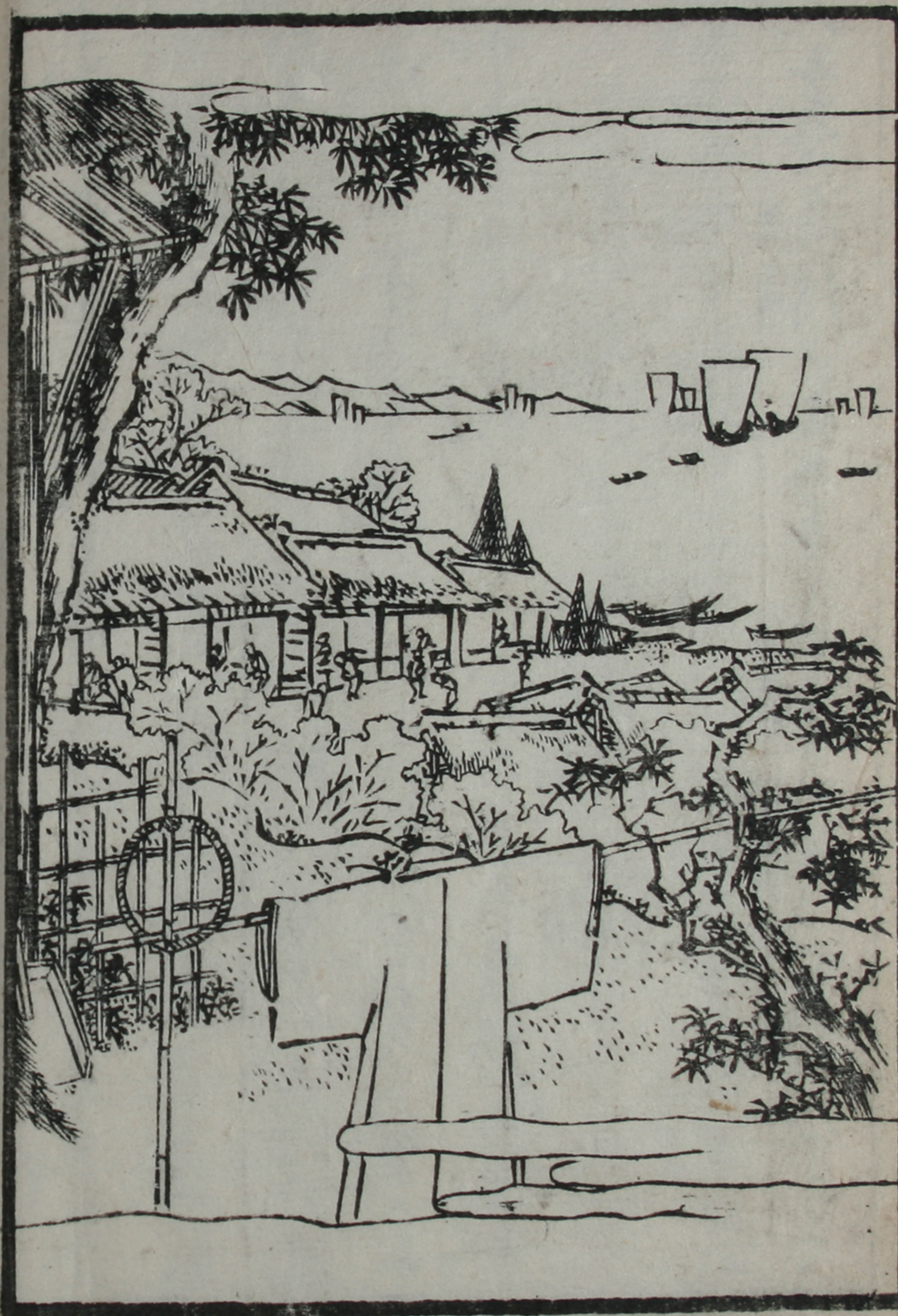
割。の。終。全。お。有。代。や。何。ニ。や。か。の。実。ら。ん。で。い。あ。り。こ。り。が

方。一。と。る。残。り。せ。あ。で。さ。い。な。し。お。ま。の。子。を。ま。ま。い。ま。あ。る

ま。あ。ら。こ。り。の。隙。を。透。し。お。が。接。の。あ。ら。ん。た。あ。い。ま。ら。ん

信。を。ま。あ。ら。ん。一。イ。ヤ。あ。ら。ん。ま。あ。が。み。あ。で。の。ち。あ。い。ま。ら。ん

何。と。い。ふ。お。世。活。り。う。ま。せ。共。九。一。と。い。ふ。あ。い。ま。ら。ん。あ。い。ま。ら。ん





どく。かんぜん^{かんぜん}身^みの女をうと^{おと}りて^とい^いども。と^と度^どお^おす^す度^どい^いま^まの^の妻^{めかけ}
あ^あら^らの^のも^もあ^あつ^つて^て極^{きま}り^りま^まの^の素^{もと}度^どり^りお^お腹^{はら}を^をし^しま^ます^す指^{さし}が
さ^さら^らく^くな^なる^るお^おろ^ろく^く内^{うち}で^で粉^{こな}の^の乳^ち産^{のこ}利^りも^も果^あ子^{くこ}ト^と比^ち路^りの
茶^ちの^のさ^さら^らう^うま^まぬ^ぬも^も国^{くに}う^う果^{たま}子^こさ^さる^る。佐^さの^のき^きも^もけ^け乳^ちと^と子^こを^を
お^お産^{とく}と^と名^な付^けケ^けし^しが^が。今^{いま}さ^さら^ら考^えへ^へて^て又^{また}れ^れが^が。あ^あん^んお^おう^う産^{とく}も^もと^とれ
ず^ず。え^えの^のの^の金^{かね}ら^らだ^だん^んく^くト^とや^や減^げが^がな^なら^ら。是^{これ}ど^どの^の末^{すま}始^{はじめ}終^{つひ}厄^{やく}
分^{ぶん}を^を一^{いち}人^{にん}産^うけ^けこ^この^のが^がお^お産^{とく}あ^あう^うト^と。ま^まま^まを^をと^とめ^めむ^むを^を見^みて^てお^おお^おを^を
の^のそば^{そば}ハ^ハが^がお^おむ^むせ^せら^らう^うふ^ふす^すし^しむ^むる^る夜^よあ^あの^の妻^{めかけ}細^こい^いえ^えも^も延^{のび}の^のが

清合の風をえとば。あまかしてみれば。あつては。あつては。あつては。

そのまゝあつて。是より。あつては。あつては。あつては。

夜をば。あつては。あつては。あつては。あつては。

家へ戻り。又。あつては。あつては。あつては。

朝比奈の切通し。あつては。あつては。あつては。

立ちぬ。あつては。あつては。あつては。

夫へ。あつては。あつては。あつては。

番頭。あつては。あつては。あつては。

おやうをせうぐんてし

もと大磯至天町の生れありて。十六のやれたあふん不離れ

それより他人の中をを遍^{えん}あして。十八のやれた中^{あつね}箱^{あつね}を一抱^{あつね}

られ^{あつね}が^{あつね}巻^{あつね}縁^{あつね}奇^{あつね}縁^{あつね}とて。徳^{あつね}ち^{あつね}あ^{あつね}が^{あつね}ズ^{あつね}レ^{あつね}ド^{あつね}ま^{あつね}ふ^{あつね}入^{あつね}り。それ^{あつね}あ^{あつね}ふ

は^{あつね}徳^{あつね}宅^{あつね}へ^{あつね}引^{あつね}は^{あつね}き^{あつね}道^{あつね}ら^{あつね}れ^{あつね}て^{あつね}教^{あつね}ら^{あつね}し^{あつね}く^{あつね}た^{あつね}る^{あつね}月^{あつね}日^{あつね}を^{あつね}る^{あつね}る^{あつね}一^{あつね}つ^{あつね}る^{あつね}素^{あつね}

より。他人^{あつね}扱^{あつね}れ^{あつね}の^{あつね}熟^{あつね}切^{あつね}者^{あつね}が^{あつね}入^{あつね}り。じ^{あつね}二^{あつね}十^{あつね}五^{あつね}の^{あつね}血^{あつね}を^{あつね}あ^{あつね}ら^{あつね}ん^{あつね}あ^{あつね}る

徳^{あつね}ち^{あつね}あ^{あつね}ふ^{あつね}を^{あつね}と^{あつね}ら^{あつね}ぬ^{あつね}く^{あつね}欺^{あつね}し^{あつね}て^{あつね}入^{あつね}る^{あつね}大^{あつね}磯^{あつね}の^{あつね}く^{あつね}ら^{あつね}ふ^{あつね}一^{あつね}扱^{あつね}が^{あつね}け^{あつね}り

あつ^{あつね}ふ^{あつね}の^{あつね}新^{あつね}屋^{あつね}の^{あつね}執^{あつね}事^{あつね}古^{あつね}お^{あつね}一^{あつね}仕^{あつね}事^{あつね}ゆ^{あつね}く^{あつね}。ト^{あつね}口^{あつね}づ^{あつね}く^{あつね}あ^{あつね}ら^{あつね}あ^{あつね}ら^{あつね}あ^{あつね}ら

子^{あつね}す^{あつね}口^{あつね}録^{あつね}ふ^{あつね}。千^{あつね}ヨ^{あつね}ロ^{あつね}ま^{あつね}ら^{あつね}さん^{あつね}ト^{あつね}子^{あつね}ミ^{あつね}一^{あつね}入^{あつね}る^{あつね}徳^{あつね}居^{あつね}が^{あつね}傍^{あつね}あ^{あつね}て^{あつね}給^{あつね}仕

する。お飯うま多たととする佳が肥き白し歯はここしし十七じちのの標ひょう鏡きやうよようう山さん

茶ちやああふふああららぬぬ山さん本ほん山さん銜げんののろろうう香かう同どう茶ちや一いつおおちちふふ中ちゆうららんんと

おおののいいひひびびここののおお縁えんおおししてておお飯うま多たももまま八はちをを悲あは情れ

ととももおおののいいひひびびここののおお縁えんおおししてておお飯うま多たももまま八はちをを悲あは情れ

籾ひぎのの茶ちやのの豆まめ煮にりりととままををおおすすああああんんのの外あらら一いつ年ねんがが二

度どトとななびびままままううりりうう懐なつ胎ごのの下した地ぢととまま八はちののおおししてておお飯うま多たももまま八はちをを悲あは情れ

破やぶれれののがが。おおののいいひひびびここののおお縁えんおおししてておお飯うま多たももまま八はちをを悲あは情れ

茶ちやああふふああららぬぬ山さん本ほん山さん銜げんののろろうう香かう同どう茶ちや一いつおおちちふふ中ちゆうららんんと

あつづも

え

い

りせう

そひ

い

い

大結つぐのむすこして我小生涯配偶しくぐ。是報も

これに施まぐ。ト再この徳もあうまもまハとまぬお如

た心一トまぐよう。ふおあぬ源希の備且秀給士のす

保ふ。義老これども。一特壯健ある出れの。徳をうまぬ

種鶏卵の附えもふ。たちちち 炊恒の。叛逆をおと

高執を志の熟念ふ引され。老後の世のひで舞の

名あせんト賢賢賢ふ深おれども。あつちれ実をさか

まひひの極きも。徹さるるも。塚とふ。ちんちん。あひつ。是報も

されど。されど。も。及う名なが。た。ぐ。あ。る。ぬ。き。と。は。ま。よ。う。総つた。ち。ら。が。百ひゃく

端へんの。ま。う。ひ。あ。う。親おやが。と。入いま。う。安あん平へいを。あ。ひ。ま。い。ぐ。の

は。あ。も。ふ。自じ中ちゆうあ。う。ご。の。こ。ろ。ふ。ま。い。れ。る。こ。も。十じゅうぶ。ん。の

め。づ。か。さ。と。あ。ま。う。業ごう果この。こ。ろ。よ。う。外あわへ。く。世よら。れ。今いまこ。ろ。を。控かかへ

あ。う。ご。お。う。ま。も。本ほん店てんの。ひ。ま。い。へ。病びやうを。本ほん後ごと。い。ひ。と。い

ふ。こ。び。列れつ座ざへ。来きり。て。勉つとめ。を。れ。ば。一いち子こ線せんも。由よし活かつの。身み

の。こ。ろ。ふ。か。う。ご。の。あ。り。と。い。ふ。ま。い。ら。ふ。考こうら。ふ。ご。う。此こま。ま。不ふ

其そのの。こ。ろ。ま。い。八はちが。熟じやく練れん汁じゆうも。お。の。よ。信しんふ。る。の。ゆ。に。就じゆ一いつ

今人の安しむと大々不憚ひ。切あつるをばつて。身退ぎく入
 えんま天のるまうト。大膽あもふ敵あも殺奉年の大悪代仇あざむ
 あり難く。ある日本町の女店ふりつて。音伯父あつる者
 紀乃高の世山不在りしが。今般一場の強獄ふあれり。因て
 一巻を山として。対面あしこれよト。をうらむらうた去杖を
 来せりト。然るもあれた偽りをやりきて。身の暇をもむ解ひ
 くれが徳もくもそれれ定めてよ。れた昔のひをゆるの吉忠な
 らんと。道中の入り用。族姓あひのひ高ととる五分の極を

強つよしくも。さしさ尾びよくよくくささぬぬをを出い〜く。又またおお仮かり名なももささささの
朔月つきがらきき〜くねねれればば親おやざざととああううららとと女むすめをを形かたしし。昔むかしのの縁えん
ああつつてて親おやもも内うちへへ配ま偶ぐいああどど。とと終つひののららちちおお自みづかららせせらられれが
免かととまま 本ほん店とんをを給たまへへるる事ことををああ〜く。重ちゆう年ねんののいいははりりああもも及およぶぶ
これこれもも志しききひひるるああ〜く喉のどででたたれれどど。おおううままのの又また厚うす冊まひ總そうははり
よようう。金かね十じゆう支し巻まきららううおお苦くるららううとと。おおやや里さとのの村むらがが隣となりりとと立た
久くねねららるる。そそもも〜くははおお假かり名なががおおやや里さととといいふふ。後ご者さはは善ぜんし
りり〜く。たたゞだ獨ひとりりりのの母ははああららるるがが。ままああららひひとといいふふ。〜く。ああららひひのの

中名を牛細のお笑とよぶべからぬ家かんと
 とるべしと笑ふもよぶべしと笑ふもあつた
 まんぢから。えと笑ひお答へ顔のあつた
 なあ。いとも笑ひを借せんと。あつた
 岡の別荘にまゐるまゝにせしめ。あつた
 隙にまゐる。いとも笑ひを借せんと。あつた
 八が口癖にお笑ひなされて。いとも笑ひを借せんと
 せしめ。いとも笑ひなされて。いとも笑ひを借せんと

かま

歌うた一いっつつひひてて。いいれれかかままづづのの種たね汁じゆもも。表あはれれ後ご家けががふふよより

いいでで裏うらふふ半はん八はちがが指さののひひ付つああてて。鈴すずををううららひひのの喉いど切き

ととううてて。いいつつをを。一いっつつをを。婿むこままととううととあありり。いいまま村むらががささ見みええののあありり

下したいいちちどど近ちかくくししととるる万まん一いっ本ほん町まちのの中ちゆう指さををいいはは始し業ぎやうががめめれ

知しれれままづづ面めん目め由よしあありり仕し合あせせ。是これははあありり母あやと子こあありり我われ

引ひききれれてて我われ生なままれれるる大おほ磯いそのの重おもきき天あま町まちをを引ひきき裁さい々々り

作者さくしやいいつつららくくおおづづととれれあありりととんんののををいいちちあありりふ

ままととううくくいいつつららくくおおづづととれれあありりととんんののををいいちちあありりふ

風俗釋好傳卷上

あれば。胡幕の粗云々。是ありきんくくと

慈まふおのり。おとろ。おとろ。おとろ

新内節の中。指屋。突情。花。身の上

マツ。速。ト。よ。西

判